

7 嵐山郷

1 概要

- (1) 利用者の特性に応じた支援の実施
利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。
- (2) 重度障害者の支援
強度行動障害など重度の障害児・者に対し、生活支援を実施した。
- (3) 在宅障害者の支援
短期入所の受入れなどにより障害者の在宅生活を支援し、地域貢献を推進した。

2 利用者状況

- (1) 入退所の状況 (人)

施設種別	性別	定員	前年度末	入 所	退 所	年度末
知的障害児施設	男	—	15	1	0	16
	女	—	9	1	1	9
	計	25	24	2	1	25
障害者支援施設	男	—	185	3	1	187
	女	—	137	4	3	138
	計	329	322	7	4	325
重症心身障害児施設	男	—	25	0	0	25
	女	—	33	1	2	32
	計	60	58	1	2	57
計	男	—	225	4	1	228
	女	—	179	6	6	179
	計	414	404	10	7	407

- (2) 退所の理由 (人)

施設種別	区分	地域移行	死亡(病気)	その他	計
知的障害児施設		0	0	1 (障害者支援施設へ移行)	1
障害者支援施設		0	3	1 (重症心身障害児施設へ移行)	4
重症心身障害児施設		0	2		2
計		0	5		7

- (3) 障害者支援施設 障害程度区分 平成23年3月31日現在 (人)

程度区分	男	女	計	割合
区分6	129	95	224	68.9%
区分5	46	34	80	24.6%
区分4	12	9	21	6.5%
区分3	0	0	0	0.0%
合計	187	138	325	100.0%

(4) 利用者の知能指数

平成22年3月31日現在 (人)

	性別	測定不能	I Q	I Q	I Q	I Q	未測定	計
			19以下	20~34	35~49	50以上		
知的障害児施設	男	11	0	2	0	0	3	16
	女	5	2	1	0	0	1	9
	計	16	2	3	0	0	4	25
障害者支援施設	男	95	19	38	9	5	21	187
	女	69	17	27	4	0	21	138
	計	164	36	65	13	5	42	325
重症心身障害児施設	男	24	1	0	0	0	0	25
	女	30	1	0	1	0	0	32
	計	54	2	0	1	0	0	57
計	男	130	20	40	9	5	24	228
	女	104	20	28	5	0	22	179
	計	234	40	68	14	5	46	407
割合		57.5%	9.8%	16.7%	3.5%	1.2%	11.3%	100.0%

(5) 通学状況

学校名	知的障害児施設	重症心身障害児施設	計
東松山特別支援学校 (通学)	5人	—	5人
熊谷特別支援学校 (通学)	—	3人	3人
本庄特別支援学校 (通学)	1人	—	1人

(6) 健康管理の状況

日ごろから利用者の健康観察を行うとともに定期的に健康診断を実施して、疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。

ア 診療棟受診件数

(回)

科目 区分	内科	精神科	皮膚科	整形外科	耳鼻科	眼科	婦人科	計
	受診延回数	14,222	895	677	209	1,634	501	187
月平均	1,185	75	56	17	136	42	16	1,527

イ 外部医療機関受診件数

(回)

科目 区分	内科	皮膚科	外科	整形外科	耳鼻科	眼科	婦人科	泌尿器科	放射線科	脳外科	乳腺	精神科	計
	入院件数	5	0	1	5	0	1	0	1	0	0	0	0
入院日数	69	0	18	37	0	8	0	147	0	0	0	0	279
通院日数	25	11	21	13	0	5	1	43	0	7	1	0	127

(7) 保育所

事業団立認可保育所として、障害児保育に摂食・嚥下指導を取り入れるなど特色を活かす他、高齢者施設慰問を行い地域交流・世代間交流を図った。

平成 23 年 3 月 31 日現在 (人)

年齢 性別	定員	現 員						合 計
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	
男	—	4	2	4	4	1	3	18
女	—	2	1	3	2	1	6	15
合 計	45	6	3	7	6	2	9	33

3 安心・安全の確保

- (1) 利用者を災害から守るため法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。
- (2) 消防署の指導のもとに 10 月に総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

4 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

- (1) 日中支援の状況 (複数参加あり) (人)

	療育活動	行動支援	創作活動	作業活動	職場実習	計
男	201	73	37	56	13	380
女	218	23	33	40	10	324
計	419	96	70	96	23	704

- (2) 主な行事の実施状況

年 月	実 施 事 項 等
22.7	納涼花火大会
9	還暦の祝い
10	嵐山郷まつり
11	アーティストボランティア・コンサート
12	年末お楽しみ会、クリスマスコンサート
23.1	初詣
3	梅林鑑賞

- (3) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 夜間の勤務状況のチェック
園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。
- ・ 問題兆候への「気づき」
寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。
- ・ 職員への面談と教育
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

5 地域社会との共生

(1) 短期入所

在宅の心身障害児（者）のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。
重症心身障害児の定員を、23年1月に2人から5人に増員した。

区 分	受入件数(件)	延べ人数(人)
知的障害児施設	206 (72)	613
障害者支援施設	687 (47)	3,262
重症心身障害児施設	200 (74)	593
計	1,093 (193)	4,468

※（ ）内は、日中一時支援事業

(2) 相談支援事業

障害児等療育支援事業（療育拠点施設事業）を県から受託し、研修会及び連絡調整会議を実施して、県内の生活支援センターとの連携に努めた。

事業区分	開催月及び実施回数
支援センター職員研修会等	6月－2回、 1月－2回
個別案件への相談助言	23件

(3) ケアホームの運営

平成23年3月31日現在

ケアホーム名称	定員(人)	利用人数(人)
「嵐山ハイム」	6	6
「ふるさとハイム」	5	5
計	11	11

(4) 地域生活定着支援センターの運営

平成22年5月に開設し、刑務所や少年院等から退所予定の障害者・高齢者に対し地域社会への復帰を支援した。(件)

コーディネート	フォローアップ	相談支援
3	2	6

(5) 「カフェ・パステル」の運営

「カフェ・パステル」の運営を行い、重度知的障害者の社会参加・就労支援の場を提供し、自立に向けた支援を行った。

年間来店者数	26,438人
参加利用者数	21人
平均工賃支給額	2,819円

(6) ボランティアの受入れ

受入延べ人数(人)	主な内容
2,235	衣類補修、環境美化、買物、理美容等

(7) 実習生の受入れ

区 分	実人数(人)	延べ日数(日)
保育士実習	176	2,096
社会福祉士実習	8	154
その他の実習	64	433
計	248	2,683

(8) 見学者の受入れ

受入延べ人数(人)
688

6 施設・設備の維持管理

- (1) 4、6 寮内部の改修工事を行い、利用者の特性に応じた安全で住みやすい生活環境への改善を図った。
- (2) 4、6、13、14 寮のスプリンクラー設置工事を実施した。
- (3) 利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。
- (4) 職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

7 職員研修

- (1) 埼玉県社会福祉協議会と連携して、在宅障害者及び民間福祉職員向けの摂食・嚥下リハビリテーション研修会を開催し、専門的支援技術の提供を積極的に行った。
- (2) 事業団研修体系及び嵐山郷研修体系に基づいて、個別・集団指導研修及び集合研修を実施した。集合研修の主な内容は、摂食嚥下・薬・てんかんの基礎知識やIT研修など。
- (3) 中核となる中間監督者に対する教育の場としてスーパーバイザー養成研修を行った。
- (4) 寮、棟合同でケースカンファレンスを開催した。
- (5) 各部が年間を通じて研究した課題について、発表・討議を行う研究事業発表会を開催した。22年度の研究課題は利用者の高齢化・ターミナルケア・成年後見・不適応行動の支援など。

8 医科・歯科診療

(1) 医科

障害者一般外来診療を行い、在宅障害者の福祉に寄与した。

(人)

診療科目	内科	精神科	耳鼻科	皮膚科	眼科	婦人科	整形外科	計
一般外来	231	1	408	3	13	7	0	663
児者施設	14,222	895	1,634	677	501	187	209	18,325
合 計	14,453	896	2,042	680	514	194	209	18,988

(2) 歯科

常勤の歯科医師を中心として、県歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児（者）の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児（者）の治療及び口腔機能の改善に努めた。

(人)

区 分	月													計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
実 人 員	297	254	263	250	257	257	282	266	264	264	313	311	3,278	
延 べ 人 員	520	436	475	443	420	431	501	433	375	407	453	469	5,363	
内 訳	児者施設	364	297	321	316	254	287	346	279	214	281	297	3,582	
	一般外来	156	139	154	127	166	144	155	154	161	126	156	1,781	
全身麻酔治療回数	2	1	2	1	1	1	1	2	1	0	3	1	16	
鎮静法治療回数	22	30	44	30	21	28	37	30	34	28	36	25	365	

8 あすなろ学園

1 概要

- (1) 利用者の特性に応じた支援の実施
利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。
- (2) 重度障害者の支援
行動障害など重度の利用者に対し、生活支援を実施した。
- (3) 指定管理業務の円滑な実施
北本市指定管理の受託初年度に当たって、指定管理業務を円滑に実施した。

2 利用者状況

- (1) 入退所の状況 (人)

区分 性別	定員	前年度末	入 所	退 所	年度末
男	—	24	0	1	23
女	—	14	0	0	14
計	50	38	0	1	37

- (2) 退所の理由 (人)

就労	死亡 (病気)	その他	計
0	0	1 (医療機関への入院1)	1

- (3) 障害程度区分 平成23年3月31日現在 (人)

程度区分	男	女	計	割合
A	4	4	8	21.6%
B	16	8	24	64.9%
C	3	2	5	13.5%
合 計	23	14	37	100.0%

- (4) 利用者の知能指数 平成23年3月31日現在 (人)

性別	測定不能	I Q 19以下	I Q 20~34	I Q 35~49	I Q 50以上	未測定	計
男	2	2	7	6	0	6	23
女	0	1	5	6	0	2	14
計	2	3	12	12	0	8	37
割合	5.4%	8.1%	32.4%	32.4%	0.0%	21.6%	100.0%

- (5) 健康管理の状況

日ごろから利用者の健康観察とともに健康診断及び嘱託医師による定期的な健康相談を実施して、疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。

また、保護者を対象に嘱託医による健康に関する講演を保護者を対象として開催し、利用者の健康管理への啓発を行った。

健康相談実施状況

回数	延べ人数
12回	444人

3 安心・安全の確保

- (1) 利用者を災害から守るため法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。
- (2) 消防署の指導のもとに総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

4 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

- (1) 日中支援の状況（複数参加あり） (人)

	受託作業		EM活性液 担当	さをり織り 担当	創 作 スポーツ	散 歩 カラオケ
	第1作業室	第2作業室				
男	11	12	4	2	14	7
女	7	7	0	3	5	6
計	18	19	4	5	19	13

- (2) 主な行事の実施状況

年 月	実 施 事 項 等
2 2.5	彩の国ふれあいピック春季大会
7	お楽しみ会
9	日帰り研修（グリーン牧場）、北本高校文化祭参加 北本福祉まつり販売
1 0	あすなろ学園運動会、彩の国ふれあいピック秋季大会
1 1	騎西特別支援学校文化祭販売、北本産業まつり
1 2	バイキング、カフェ・パステル障害者施設製品販売
2 3.1	新春ボウリング大会
3	社会科見学

- (3) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 勤務状況のチェック
園長が現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。
- ・ 問題兆候への「気づき」
寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、支援職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。
- ・ 職員への面談と教育
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

5 地域社会との共生

- (1) 「あすなろショップ」の運営

北本市立健康増進センター内売店「あすなろショップ」の運営を行い、知的障害者の社会参加・就労支援の場を提供し、自立に向けた支援を行った。

参加利用者数（延べ人数）
968人

- (2) ボランティアの受入れ

受入延べ人数（人）	主 な 内 容
297	施設の行事、「あすなろショップ」の運営、さをり織りの縫製

(3) 実習生の受入れ

区 分	実人数(人)	延べ日数(日)
保育士実習	1	5

(4) 見学者の受入れ

受入延べ人数(人)
101

6 施設・設備の維持管理

- (1) 施設内外の改修工事を行い、利用者の特性に応じた安心で利用しやすい作業環境の改善を図った。内容は次のとおり。
 - ア 作業室床の研磨及び塗装
 - イ 屋根及び施設内壁の塗装
 - ウ トイレの洋式化及びシャワートイレの設置
 - エ スロープ及び玄関前手摺りの設置
- (2) 利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。
- (3) 職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

7 職員研修

- (1) 職員の資質向上を目的とした研修計画に基づき、OJTを中心に研修を実施した。
- (2) 本部研修と連動しながら、研修の必要性などをその都度運営会議等で検討し、関係団体等の各種研修会に職員を派遣し職員の専門性の向上を図った。
- (3) 新体系移行に向けて障害者自立支援法に関する研修を、外部講師を招いて実施した。

9 皆光園

1 概要

- (1) 利用者の特性に応じた支援の実施
利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。
- (2) 重度障害者の支援
脳性マヒなど重度の障害者に対し、健康管理等により生活支援を実施した。
- (3) 利用者の身体機能の維持・向上
機能訓練などの日中活動を充実させ、利用者の身体機能の維持・向上を図った。
- (4) 在宅障害者の支援
短期入所の受入れなどにより障害者の在宅生活を支援し、地域貢献を推進した。
- (5) 新体系移行
平成22年4月1日から障害者自立支援法に基づく障害者支援施設として運営した。

2 利用者状況

- (1) 入退所の状況 (入所) (人)

区分 性別	定員	前年度末現員	入所	退所	年度末現員
男	—	25	1	2	24
女	—	25	0	0	25
計	50	50	1	2	49

- (2) 退所の理由 (人)

区分 性別	死亡 (病気)	その他	計
男	2	0	2
女	0	0	0
計	2	0	2

- (3) 入所者の障害の状況

- ア 疾病の状況 (人)

区分 障害	総数	男	女
脳性小児マヒ	30	14	16
脳血管障害	7	5	2
脊髄損傷等	6	3	3
進行性筋萎縮症	1	0	1
その他	5	2	3
計	49	24	25

- イ 障害程度区分の状況 (人)

程度区分	男	女	計	割合
区分6	20	25	45	91.8%
区分5	4	0	4	8.2%
合計	24	25	49	100.0%

ウ 身体障害の等級 (人)

等級	男	女	計	割合
1 級	19	23	42	85.7%
2 級	3	2	5	10.2%
3 級	2	0	2	4.1%
合計	24	25	49	100.0%

(4) 健康管理の状況

利用者の健康管理については、内科、整形外科及び心療内科の嘱託医師により、日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断を実施した。

受診状況 (回)

科目 区分		内科	外科	整形 外科	眼科	耳鼻 科	泌尿 器科	診療 内科	歯科	その他	合計
回数		1,310	17	125	16	5	27	233	271	37	2,041
内 訳	嘱託医	1,200	0	103	0	0	0	232	0	0	1,535
	その他	110	17	22	16	5	27	1	271	35	504
入院(件)		9	0	1	0	0	0	0	0	2	12

3 安心・安全の確保

- (1) 利用者を災害から守るため法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。
- (2) 消防署の指導のもとに10月に総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

4 利用者支援

利用者への直接聴き取りによる満足度調査を実施し、利用者の意向に応じたサービスの提供を行った。

また、新体系移行に伴い、創作活動にフラワーアートや音楽活動の種目を増やして日中支援の充実を図った。

(1) 日中支援（創作活動の状況） (人)

種目 性別	俳句	七宝焼	民謡	フォト	カラ オケ	書道	園芸	ひまわり (童謡)	フラワー アート	音楽活動	延人員	実人員
	男	2	2	2	2	3	0	3	2	2	4	22
女	3	6	5	1	8	5	5	8	10	17	68	21
計	5	8	7	3	11	5	8	10	12	21	90	35

(2) 主な行事の実施状況

年月	実施事項等
22.4	三者合同歓送迎会
5	埼玉協ゲーム交流会 聴能野外訓練
6	埼玉協スポーツ交流会
9	皆光園祭
10	深谷市ふれあいスポーツ大会 深谷市福祉健康まつり 深谷市障害者文化作品展 埼玉協外出交流レク 聴能運動会 デイ日帰り旅行
11	利用者忘年会 埼玉協文化作品展
12	聴能クリスマス会
23.2	聴能節分会
3	埼玉協ゲーム交流会 聴能修了式

(3) 機能訓練の状況

利用者の身体機能の維持・向上のために機能訓練を実施した。

対 象	機能訓練(人)
入所利用者	39
デイサービス利用者	34

(4) 聴能訓練の状況

就学前の難聴児に対して、日常生活の適応に必要な聴能訓練を実施するとともに、地域の学校等からの依頼に応じ聴力検査、予後指導を実施した。

訓練児童数 (人)	訓練延べ人数 (人)
17	872

(5) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 夜間の勤務状況のチェック
園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。
- ・ 問題兆候への「気づき」
寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。
- ・ 職員への面談と教育
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

5 地域社会との共生

(1) 短期入所

在宅の身体障害者のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入件数(件)	延べ人数(人)
障害者支援施設	163	476

(2) デイサービス

地域の障害者に対して、ニーズの高い機能訓練を中心とした支援を実施した。

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約人数	32	33	34	34	35	35	36	36	36	35	35	36	417
利用延べ人数	278	250	298	318	279	273	297	272	296	278	268	309	3,416

(3) ボランティアの受入れ

受入延べ人数 (人)	主 な 内 容
917	買物の付き添い、理美容、食事介助、創作活動 (入所) 絵手紙、陶芸、パソコン、料理 (デイ) 運動会、クリスマス会 (聴能)

(4) 実習生の受入れ

区 分	実人数(人)	延べ日数(人日)
介護福祉士実習	33	386
社会福祉士実習	15	330
保育士実習	9	132
介護体験 (教員免許)	2	12
計	59	860

(5) 見学者の受入れ

受入延べ人数 (人)
181

6 施設・設備の維持管理

(1) 設備の整備

デイサービス送迎、通院等のニーズ応えるため福祉車両を新たに1台配置した。

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

7 職員研修

職員の教育として、職場内研修を積極的に行うとともに、県内外各種研修会へ派遣し、資質及び専門性の向上に努めた。

(1) リスクマネジメント研修

職員の危機管理意識の向上及び事故防止のため、手引書『リスクマネジメントを考える』に沿って報告・連絡手順の統一化を徹底するとともに、リスクマネジメント研修を実施した。

(2) 医療研修

医療関連研修（嚙下ストレッチ・吸引法等）を実施し、支援職員の支援技術を高めた。

8 歯科診療

常勤の歯科医師を中心として、県北地域の歯科診療の拠点として、障害児（者）歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児（者）の治療及び口腔機能の充実に努めた。

(人)

区 分	月												計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
実 人 員	230	187	243	257	264	256	233	237	241	228	213	200	2,789	
延 べ 人 員	288	215	307	330	340	321	282	291	286	276	252	257	3,445	
内 訳	入 所	24	16	21	25	33	30	19	20	21	26	18	21	274
	外 来	264	199	286	305	307	291	263	271	265	250	234	236	3,171
全身麻酔治療回数	5	4	4	3	6	1	5	2	2	3	5	3	43	
鎮静法治療回数	69	55	100	83	83	91	68	93	83	83	84	94	986	

10 そうか光生園

1 概要

(1) 利用者の特性に応じた支援の実施

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(2) 重度障害者の支援

脳性マヒなど重度の障害者に対し、健康管理等により生活支援を実施した。

(3) 利用者の身体機能の維持・向上

機能訓練などの日中活動を充実させ、利用者の身体機能の維持・向上を図った。

(4) 在宅障害者の支援

短期入所の受入れなどにより障害者の在宅生活を支援し、地域貢献を推進した。

(5) 新体系移行

障害者自立支援法に基づく新体系移行を進め、平成23年4月1日から障害者支援施設に移行した。

2 利用者状況

(1) 入退所の状況（入所）

(人)

性別 \ 区分	定員	前年度末現員	入所	退所	年度末現員
男	—	34	1	2	33
女	—	16	0	0	16
計	50	50	1	2	49

(2) 退所の理由

(人)

性別 \ 区分	死亡(病気)	その他	計
男	1	1 (長期入院1)	2
女	0	0	0
計	1	1	2

(3) 入所者の障害の状況

ア 疾病の状況

(人)

障害 \ 区分	総数	男	女
脳血管障害	17	9	8
脳性マヒ	17	12	5
小脳変性症	2	0	2
脊髄損傷等	3	3	0
頭部外傷	4	4	0
筋炎等	1	1	0
その他	5	4	1
計	49	33	16

イ 障害程度区分の状況

程度区分	男	女	計	割合
A	25	16	41	83.7%
B	6	0	6	12.2%
C	2	0	2	4.1%
合計	33	16	49	100.0%

ウ 身体障害の等級

等級	男	女	計	割合
1級	31	16	47	96.0%
2級	1	0	1	2.0%
3級	1	0	1	2.0%
合計	33	16	49	100.0%

(4) 健康管理の状況

利用者の健康管理については、内科、整形外科及び心療内科の嘱託医師により、日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断を実施した。

受診状況

(回)

科目 区分		内科	外科	整形外科	眼科	耳鼻科	泌尿器科	心療内科	歯科	その他	合計
回数		1,970	32	150	8	1	31	60	118	56	2,426
内 訳	嘱託医	1,928	0	150	0	0	0	60	0	0	2,138
	その他	42	32	0	8	1	31	0	118	56	288
入院(件)		4	0	2	0	0	2	0	0	0	8

3 安心・安全の確保

- (1) 利用者を災害から守るため法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。
- (2) 消防署の指導のもとに11月に総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

4 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定するとともに、利用者がその人らしい生活と社会活動への参加ができるような支援に努めた。

(1) 入所利用者のクラブ活動加入状況

(人)

種目		家庭科	ソングソング (カラオケ)	延人員
性別	男	2	5	7
	女	7	5	12
	計	9	10	19

※ このほかに、書道・陶芸・生け花・車いすダンス等の活動を実施した。(参加者は随時)

(2) 主な行事の実施状況

年 月	実 施 事 項 等	
2 2.4	聴能児童運動会	
5	日帰り外出 (そうか公園)	埼療協ゲーム大会
6	日帰り外出 (葛西臨海公園)	
7	日帰り外出 (上野美術館)	聴能訓練児夕涼み会
8	日帰り外出 (江戸東京博物館)	草加市花火大会鑑賞
9	日帰り外出 (浅草寺)	そうか光生園秋まつり
1 0	日帰り外出 (東武外出公園)	埼療協外出交流レクリエーション
1 1	日帰り外出 (葛西臨海公園)	埼療協文化作品展
1 2	日帰り外出 (鉄道博物館)	年忘れの会
2 3.1	日帰り外出 (越谷レイクタウン) 聴能訓練児餅つき会	
2	日帰り外出 (ららぽーと)	
3	埼療協ゲーム交流会	

(3) 機能訓練の状況

利用者の身体機能の維持・向上のために機能訓練を実施した。

対 象	機能訓練(人)
入所利用者	5 0

(4) 聴能訓練の状況 (人)

訓練児童数	訓練延べ人数
3 0	1, 2 4 5

(5) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 夜間の勤務状況のチェック
園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。
- ・ 問題兆候への「気づき」
寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。
- ・ 職員への面談と教育
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

5 地域社会との共生

(1) 短期入所

在宅の心身障害児(者)のニーズに応えるため、短期入所を積極的に受け入れた。
定員を、22年12月に4人から7人に増員した。

区 分	受入件数(件)	延べ人数(人)
身体障害者療護施設	3 0 6	1, 2 8 1

(2) 地域活動支援センター (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
区分													
契約人数	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	15	163
利用延人数	63	50	65	63	56	59	60	46	56	54	48	64	684

(3) 相談支援事業

障害児等療育支援事業及び障害者相談支援事業を実施し、在宅の障害児・者を支援した。

ア 障害児等療育支援事業（県委託事業） (件)

在宅支援訪問療育等指導事業	在宅支援外来療育等指導事業	施設支援一般指導事業
380	42	132

イ 障害者相談支援事業（市事業） (件)

訪問	外来	電話
380	44	1,171

(4) ボランティアの受入れ

市内の行事、理美容、文化的活動（音楽・喫茶）等利用者の援助のため、地域住民や学生のボランティアを積極的に受け入れた。

受入延べ人数（人）	主な内容
971	クラブ活動、環境美化、買物外出、理美容等

(5) 実習生の受入れ

福祉人材の育成を図るため、実習生を積極的に受け入れた。

区分	実人数（人）	延べ日数（日）
社会・介護福祉士等実習	67	430
歯科診療関係実習	21	55
その他の実習（聴能等）	5	110
計	93	595

(6) 見学者の受入れ

身体障害者福祉に対する県民の理解と施設利用の促進を図るため、施設利用希望者、短期入所利用希望者、関係機関職員等の見学を積極的に受け入れた。

受入延べ人数（人）
461

6 施設・設備の維持管理

(1) 改修工事

利用者ニーズ及び施設の老朽化に対応して、次のとおり実施した。

- ア 短期入所室の増設工事
- イ 歯科診療所専用玄関設置工事
- ウ 食堂等の外壁塗装工事

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

7 職員研修

(1) 施設内研修

支援技術の向上のため、OJTを軸とした園内研修を行うとともに、全職員を対象にして、接遇等に係る研修を実施した。

(2) 施設外研修

虐待防止の徹底のために権利擁護研修等に参加するとともに、職員研修計画に基づき、サービスの向上を図るための埼療協職員研修、看護研修会、接遇研修等を受講した。

8 歯科診療

常勤の歯科医師を中心として、県歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児（者）の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児（者）の治療及び口腔機能の改善に努めた。

(人)

区 分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	実 人 員		158	149	165	221	158	157	182	140	158	179	150	116
延 べ 人 員		192	169	190	244	186	180	199	166	168	198	171	125	2,188
内 訳	入 所	12	9	12	55	24	18	13	12	6	7	12	7	187
	外 来	180	160	178	189	162	162	186	154	162	191	159	118	2,001
全身麻酔治療回数		5	4	4	1	0	2	3	3	2	2	3	1	30
鎮静法治療回数		14	25	15	36	16	21	22	22	19	22	28	19	259

1 1 あさか向陽園

1 概要

(1) 利用者の特性に応じた支援の実施

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(2) 利用者の身体機能の維持・向上

機能訓練などの日中活動を充実させ、利用者の身体機能の維持・向上を図った。

(3) 就労支援の実施

福祉的就労の場として、安心・安全を担保しつつ、利用者の技能が活かせる作業を提供し、作業量及び工賃の確保に努めた。

(4) 新体系移行

障害者自立支援法に基づく新体系移行を進め、平成23年4月1日から障害者支援施設に移行した。

2 利用者状況

(1) 入退所の状況 (入所)

(人)

区分 性別	定員	前年度末現員	入所	退所	年度末現員
男	—	30	4	3	31
女	—	8	1	0	9
計	40	38	0	0	40

(人)

施設種別	性別	定員	前年度末	入所	退所	年度末現員
身体障害者 入所授産施設	男	—	30	4	3	31
	女	—	8	1	0	9
	計	40	38	5	3	40
身体障害者 通所授産施設	男	—	16	1	2	15
	女	—	4	0	0	4
	計	20	20	1	2	19
知的障害者 通所授産施設	男	—	17	2	2	17
	女	—	7	1	3	5
	計	20	24	3	5	22
計	男	—	63	7	7	63
	女	—	19	2	3	18
	計	80	82	9	10	81

(2) 退所の理由

(人)

施設種別	死亡 (病気)	その他	計
身体障害者入所授産施設	0	他施設移行3	3
身体障害者通所授産施設	0	他施設移行1、家庭復帰1	2
知的障害者通所授産施設	1	就職1、他施設移行1、家庭復帰2	5
計	1	9	10

(3) 入所者の障害の状況

ア 疾病の状況 (人)

障害 \ 区分	総 数	男	女
脳血管障害	22	20	2
脳性マヒ	17	10	7
小脳変性症	0	0	0
脊髄損傷等	4	3	1
頭部外傷	2	2	0
筋炎等	0	0	0
その他	14	11	3
計	59	46	13

イ 障害程度区分の状況

障害程度区分(身障)	男	女	計	割合
A	2	1	3	5.1%
B	31	9	40	67.8%
C	13	3	16	27.1%
合 計	46	13	59	100.0%

障害程度区分(知的)	男	女	計	割合
A	3	0	3	13.6%
B	10	5	15	68.2%
C	4	0	4	18.2%
合 計	17	5	22	100.0%

ウ 障害の等級

等 級 (身障)	男	女	計	割合
1 級	21	2	23	39.0%
2 級	20	8	28	47.5%
3 級	5	1	6	10.1%
4 級	0	2	2	3.4%
合 計	46	13	59	100.0%

等 級 (知的)	男	女	計	割合
A	0	0	0	—%
B	10	3	13	59.1%
C	7	2	9	40.9%
合 計	17	5	22	100.0%

(4) 健康管理の状況

利用者の健康管理については、内科、整形外科及び心療内科の嘱託医師により、日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断を実施した。

受診状況

(回)

科目 区分		内科	外科	整形 外科	眼科	耳鼻 科	泌尿 器科	精神科	歯科	その他	合計
回数		1,952	27	128	9	0	38	62	155	45	2,416
内 訳	嘱託医	1,897	0	126	0	0	0	62	0	0	2,085
	その他	55	27	2	9	0	38	0	155	45	331
入院(件)		4	4	0	0	0	0	0	0	0	8

3 安心・安全の確保

(1) 災害時における利用者の生命の安全を図るため、消防計画に基づき避難訓練、総合防災訓練を実施するとともに、消防設備等の点検・整備を定期的に行い、災害対策に万全を期した。

(2) 歯科診療所のスタッフにより、職員全員に心肺蘇生法の研修を受けさせ、AEDの使用方法等の習得を図った。

4 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

授産事業について、嵐山郷から花と苗の提供を受けたラベンダーを材料に、芳香剤を製品化した。

(1) 日中支援の状況（入所利用者と通所利用者の合計、複数参加あり） (人)

	プリント (印刷科)	フリーメイト (加工科)	ハートソーイング (縫製科)	キャロット (知的加工)	計
男	9	31	6	17	63
女	1	8	4	5	18
計	10	39	10	22	81

(2) 主な行事の実施状況

年 月	実 施 事 項 等
22.4	自治会総会、レク大会
5	自治会臨時総会、ボランティア懇談会、レク大会
7	健康診断
8	自治会夕食会
10	向陽祭
23.1	新年会
2	利用者との話し合い

(3) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

- ・ 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

- ・ 問題兆候への「気づき」

寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。

- 職員への面談と教育
園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

5 地域社会との共生

(1) ボランティアの受入れ

受入延べ人数 (人)	主 な 内 容
1,012	作業補助、環境美化、行事開催等

(2) 実習生の受入れ

実 習 内 容	実 人 数 (人)	延 べ 日 数 (日)
社会福祉士実習	26	463
ヘルパー2級	3	6
介護体験(教員免許)	13	101
計	42	570

(3) 見学者の受入れ

受入延べ人数 (人)
212

6 施設・設備の維持管理

(1) 改修工事

新体系移行に向けて、印刷科(プリント工房)の間仕切り工事を実施した。

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

7 職員研修

(1) 新体系移行研修

自立支援法施設への移行を前にサービス体系や事業展開等の知識習得のための実務的研修として、4回の研修を実施した。

(2) 就業及び倫理研修

施設長が中心となり就業および倫理研修を実施し、契約職員を含め職員全体での研修を実施しモラルの向上を図った。

8 歯科診療

常勤の歯科医師を中心として、県歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児(者)の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児(者)の治療及び口腔機能の改善に努めた。

(人)

区 分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	実 人 員		157	141	148	146	159	159	154	126	168	123	119	97
延 べ 人 員		181	161	179	168	182	185	173	141	210	149	141	103	1,973
内 訳	入 所	18	15	19	19	25	28	13	14	45	29	23	13	261
	外 来	163	146	160	149	157	157	160	127	165	120	118	90	1,712
全身麻酔治療回数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鎮静法治療回数		38	32	33	36	31	22	35	32	41	28	25	18	371

1 2 障害者交流センター

1 概要

(1) 障害者の社会活動の促進

障害者に対してスポーツ・レクリエーションをはじめ、各種文化・スポーツ教室等の開催及び障害者スポーツ指導員やボランティアの養成に努めた。また、地域支援事業として、文化・スポーツプログラムを県内各地で実施した。

(2) 県民に開かれた施設づくり

地域との交流を図るため、センター祭、納涼祭の各種交流事業を実施した。開所以来の利用者数累計は395万1千人（平成23年3月末）となった。

2 利用者状況（22年度）

（人）

		利用者数	障害者数（比率）
施設利用	スポーツ施設	116,496	77,112 (66.2%)
	文化施設	82,714	38,680 (46.8%)
	小計	199,210	(障害者 115,792 58.1%) (介護者等 83,418 41.9%)
		参加者数	障害者数（比率）
事業関係	相談事業	256	95 (37.1%)
	啓発事業	2,335	445 (19.1%)
	スポーツ事業	8,787	4,118 (46.9%)
	文化・芸術事業	2,118	1,092 (51.6%)
	交流事業	1,904	1,230 (64.6%)
	小計	15,400	(障害者 6,980 45.3%) (介護者等 8,420 54.7%)
合計（施設＋事業）		214,610	(障害者 122,772 57.0%) (介護者等 91,838 43.0%)

(1) 年齢別利用証交付状況（人）

ア	0歳～9歳	男 67人 / 女 46人	計 113人
イ	10歳～19歳	男 111人 / 女 41人	計 152人
ウ	20歳～29歳	男 32人 / 女 16人	計 48人
エ	30歳～39歳	男 48人 / 女 24人	計 72人
オ	40歳～49歳	男 35人 / 女 17人	計 52人
カ	50歳～59歳	男 19人 / 女 21人	計 40人
キ	60歳以上	男 49人 / 女 37人	計 86人
合計		男 361人 / 女 202人	合計 563人

(2) 送迎バス利用状況（人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	4,772	5,109	4,866	5,214	5,011	5,499	5,343	4,963	4,196	4,726	4,444	1,891	56,034

3 安心・安全の確保

障害者が利用する施設であるため、防災に対する職員意識の高揚と、非常時に対する現実的対応を主眼に防災訓練を実施した。また、安心・安全の観点から施設設備・機器等の定期点検を行い、各設備の修理の他、非常通報装置、火災報知設備を更新し、雨漏り対策として屋上等の防水工事を行った。

- 5/18 防災設備取扱訓練（総合防災監視盤、防火扉、防火シャッター）
- 11/18 避難誘導・通報・放水訓練

4 利用者支援

(1) 文化教室

障害者を対象として、各種教室を開催した。また、教員を対象とした講座や、中学生などをボランティア活動に積極的に参加させるなど、教育機関との連携に努めた。

ア 文化教室

開講教室数	開講回数	延べ受講者数
19教室	101回	1,273人

※教室：園芸教室、夏休み親子教室、冬の親子教室、わいわいアトリエ、わいわい工房、そば打ち入門教室、パソコン相談会、料理教室、中高生福祉体験講座、教員福祉体験講座、点訳ボランティア養成講座、ピア・カウンセリング入門講座、朗読ボランティア養成講座、福祉講座、出張福祉機器等

イ 障害者向けパソコン（インターネット）教室の開催（県委託事業）

障害者が多くの情報を得る手段として、パソコンを操作してインターネット及びメールを体験するための教室を開催した。

- ・ 障害者向パソコン教室 3回 61人
- ・ 視覚障害者向パソコン教室 4回 39人

合計 7回 100人

(2) ホール事業

4講座672人（受講者の子ども預かりを含む）

オーボエとピアノコンサート／クリスマスコンサート／みぬまわいわい寄席／文化の日イベント ※その他、1階作品展示場を利用してミニコンサートを実施

(3) 情報・相談事業

ア 各種相談事業

障害者福祉・教育等について随時相談に応じた。また、福祉用具供給協会と連携し、毎週土曜日に福祉機器相談を実施した。

イ おもちゃ図書館

障害児とその家族を対象に常設のおもちゃ図書館を開設し、おもちゃの貸出のほか、遊びの場・情報交換の場として、親子教室、おもちゃ病院を実施した。

- ・ 親子教室 2回／26人
- ・ おもちゃ病院 12回／122件

ウ 福祉機器展示ホール

障害者の生活の質の向上を図るため、福祉機器に係る情報の収集及び提供に努めた。

エ 広報紙の発行

当センターの広報紙「わいわい広場」を毎月発行し、広く障害者福祉の啓発に努めた。

- ・ 発行部数4,000部（その他に点字版270部、朗読テープ123本）

オ 作品展示コーナー

障害者等の文化的創造活動について発表する場を提供し、活動意欲の向上を図るとともに、障害者の社会活動を広く県民に知らせることを目的として、各種の作品展示を行った。

- ・ 出展者（団体）17団体 延べ開催日222日
- ・ 内容 絵画、折り紙、写真、書道、紙工作、刺繍、絵手紙等

カ スポーツ医事相談

医師による医事相談（医学的な相談、アドバイス）を毎月実施した。

内科92人／整形42人 合計 134人

キ サークル育成支援

センター利用者が自主的に行っているサークルの情報を提供するとともに、サークルの支援に努めた。 *情報提供可能なサークル

サークル数	内 容
45サークル	油絵、皮革細工、調理、茶道、七宝焼、コーラス、写真、囲碁、手芸、書道、カラオケ、楽器演奏、水泳、卓球、太極拳、アーチェリー、サッカー、シンクロナイズドスイミング、シッティングバレー、グラウンドソフトボール等

(4) 人材養成・育成事業

ア 中高生福祉体験講座

中学生及び高校生の障害者福祉に対する意識を高めるため、手話、車椅子及び障害者スポーツ・レクリエーション等を体験する講座を開催した。 中学生・高校生 合計 58人

イ ボランティア養成講座

障害者福祉を理解し、ボランティアとして活動をする人を対象とした点訳、朗読ボランティア養成講座を開催した。

講座名	開催日数	受講者延人数
点訳ボランティア養成講座	6日	34人
朗読ボランティア養成講座	15日	136人

ウ 施設見学の受入れ

・体験・小中学校総合学習 144人 ・見学（障害者団体、一般） 754人

エ パソコンボランティアの養成研修等

説明会開催（年5回/11人）、スキルアップ研修会（年2回/46人）
音声対応ソフトの操作研修（年3回/40人）

(5) 交流スポーツ大会

交流アーチェリー大会など8大会 2,401人参加（役員・ボランティアを含む）

(6) 健康増進プログラム 合計1,233人参加（介護及びボランティアを含む）

ア 健康増進 ピラティスなど3種目 563人参加

イ 交流プログラム カーリングなど11種目 670人参加

(7) スポーツプログラム

プログラム数	実施回数	参加延人数（講師・介護・ボランティア含む）
32	150回	3,029人

(8) 個人指導回数 合計3,510回（体育館2,282回、屋外1,228回）

(9) 交流事業

事業名	開催日	参加者数
納涼祭	7月25日	939人
センター祭	11月21日	965人
合計		1,904人

(10) 利用者支援の充実

利用者支援充実のため、以下の取組を行った。

・ 勤務状況のチェック

所長が不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

- ・ 問題兆候への「気づき」
会議等における情報交換を綿密に行うとともに、職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。
- ・ 職員への面談と教育
所長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、サービス提供に関する研修を実施した。

5 地域社会との共生

(1) 地域との交流

ア 地域懇談会

近隣の自治会、中学校、公民館、警察署等で構成し、地域の環境整備・防災対策等について懇談した。

イ センター運営連絡会

センターの運営に関し、連絡調整や意見交換を目的に連絡会議を実施した。

(2) 地域支援事業

障害のある人が身近な地域で文化・スポーツなどの社会活動に参加できる環境を段階的に整備することを目的に実施した。

ア スポーツ分野の地域支援

障害者スポーツ・レクリエーション教室を上尾市（10回）や戸田市（9回）を中心に8市で開催し、障害者スポーツの振興や地域の指導員、ボランティアの育成を図った。 31回

また、市町村や障害者団体の依頼に応え交流センター登録団体等の障害者スポーツ指導員派遣のコーディネートを行った。 13回 合計 44回

イ 文化活動分野の地域事業

出張福祉機器展示を福祉用具供給協会の協力を得て実施した（東松山市、杉戸町、戸田市、蓮田市、宮代町、さいたま市、三芳町、松伏町の各社会福祉協議会や学校、団体主催行事に参加）。

(3) ボランティア活動支援

ボランティア同士の交流を深めることを目的とし、ボランティア意見交換会を実施した。フォローアップ講習会として外部講師による「視覚障害者の支援方法」を学んだ。

参加者 21人

(4) スポーツボランティア養成講習会

スポーツボランティアの養成講習会	計2回の実施	41人参加	
大学等に対する養成講習会	計	114人受講	合計155人

(5) 初級障害者スポーツ指導員養成講習会（埼玉県の委託事業）

戸田市で開催し修了証を交付した。 合計 53人

(6) 障害者スポーツ指導員活動支援

・ 障害者スポーツ指導員インターン制度

障害者スポーツの人材養成・育成を図り障害者スポーツに対する理解を深めることを目的として、センターが主催するスポーツプログラムにインターンとして受け入れた。

合計 登録44人 / 延べ135人

(7) 職員の外部派遣

広州2010アジアパラリンピック競技大会、全国障害者スポーツゆめ半島千葉大会など。

合計 事業数54 / 延べ54人

6 施設・設備の維持管理

(1) 改修工事

施設の経年に伴う老朽化に対応して次のとおり実施した。

- ア 監視カメラ更新工事
- イ 緊急呼び出し装置（ナースコール）改修工事
- ウ 屋上防水工事
- エ プール採暖室改修工事

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

7 職員研修

(1) 防災機器取扱い研修会

火災等を想定し「消火器と消火栓の配置」「防火ドア及び防火シャッターの作動について」「非常ベルがなった際の対応」について研修を実施した。

(2) 水難救助における連携強化のための研修会

プール事故を想定した模擬訓練・ディスカッションなどを実施し職員の危機管理能力の向上を図った。特に、スポーツ指導担当と事務所等の連携をテーマとし夜間想定の実施した。

(3) 防犯（不審者の対応方法）に関する研修会

浦和警察署員を講師に「さすまたを使用した実践・護身術」について学んだ。

(4) コミュニケーション研修会

八木ありさ氏講師(日本社会事業大学)、「コミュニケーション能力の向上」研修を実施した。

(5) 職員実践研究発表会の実施

埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科教授、佐藤雄二氏を助言者に招き、職員が個々の実践研究結果について発表した。また、当センターボランティア18人が参加し、活発な意見交換が行われた。

8 東日本大震災避難者の受入れ

福島原子力発電所の事故に伴う埼玉県の避難場所として体育館等の施設を提供し、人工透析患者など特別な配慮を要する避難者を受け入れた。

(1) 受入時期

平成23年3月30日から6月30日（予定）

(2) 受入人数

43人（受入初日3/30時点）